

Ⅱ-4 ふりかえろう・・・子どもとの接し方

ワーク1

【エピソード（1）】

優しくてのんびりしている兄の退助（4年生）、活発で元気いっぱい妹の久美子（3年生）がいます。退助がコンピュータゲームをしています。久美子が「私にもやらせてや。」と言ってきました。ちょうどいいところなので退助は「今、えいところやき、ちょっと待ちよって…。」と言いましたが、久美子は「ねえ、替ってちや…。」と何度も言うので言い争いになりました。そこへ母親がやってきて、

母親 「もう、お兄ちゃんだから久美子に替っちゃりなさい。」

退助 「もうすぐクリアできるがやき～・・・もうちょっとまってや～」

母親 「どうせずっとやりよったがやろ。あんた、お兄ちゃんやき、替っちゃりなさい。」

退助 「なんで『お兄ちゃん、お兄ちゃん』って・・・、いつも、ぼくばかり叱られるがで。」

- （1）の の部分を、母親役と退助役と観察役（1～2名）になって演技してみましょう。役をして、どんなことを感じましたか？

【エピソード（2）】

母親と退助と久美子の3人で晩ご飯を食べています。

母親 「すごいねえ。やっぱり久美子は、よう勉強するねえ。次も頑張りよ。」

久美子 「うん。それから、体育で縄跳びもクラスで一番たくさん跳べたがやき。」

母親 「へ～、久美子は何でもできるがやね。やっぱり私に似たがやね。」

母親 「そういえば、茂くん（退助の友達）もいつも100点ながやと…。」

退助は、うつむきながらご飯を食べています。

この時の退助の気持ちは…。



ワーク2 ～子どもの人権を意識した視点から～

●子育てについての考え方は、まさに様々です。あなたはどのように思いますか？

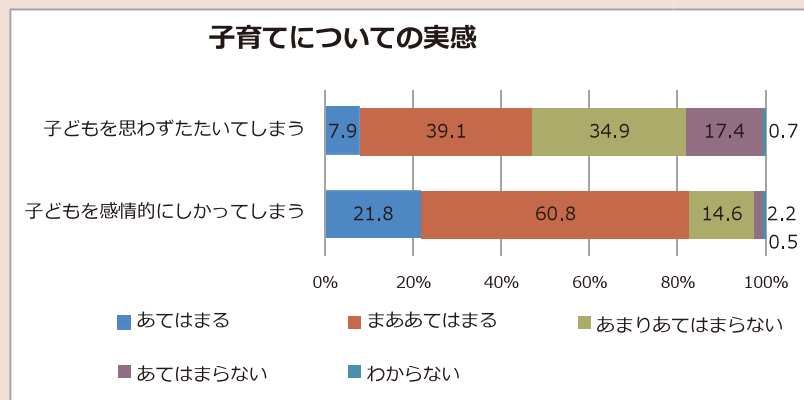
	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば 思わない	思わない
① 子どもの日記や手紙を勝手に読んでもよい。				
② 子どもの友達つきあいにはいつも気を配る。				
③ 宿題をするまで晩ご飯を食べさせない。				
④ 「男は男らしく」「女は女らしく」育てたい。				
⑤ 携帯電話のアクセスを制限してもよい。				
⑥ 危ないと思うことは何もさせない。				
⑦ ほめることが大切なので叱ることはない。				
⑧ 親が子どもの服装や髪型を決めてもよい。				
⑨ いじめは、いじめられる方にも原因がある。				
⑩ しつけをするためには、たたくこともある。				

参考：人権教育指導資料Ⅲワークショップ下「あなたの意見 子どもの意見」

感情にまかせて叱ることとしつけはちがう

資料1 子どもの心や身体を傷つけるような叱り方は、教育的な効果がないばかりでなく、児童虐待につながる可能性があります。

※児童虐待に気付いたら、通報の義務があります。



「第3回子育て生活習慣調査（幼児版）」2008年 Benesse 教育研究開発センター

資料2 児童虐待以外にも、子どもの人権に関わることはこんなものがあります。

例：いじめ、家庭内のDVを見（させ）る、ネット・ケータイによるいじめや犯罪、親の生活時間に子どもを合わせる、習い事の強制など

ふりかえり

●これから、気を付けようと思ったことを一つ書きましょう。

ジレンマ・ゲーム

自分自身の意見を発表し、他人の意見に耳を傾け、新たに気付いたことや意見を交換するように促すための方法です。

【進め方】

- (1) 取り上げている問題、例えば「表現の自由にはいかなる制限もあるべきではない」というような問題に関連する3つか4つの対立する意見を用意します。
- (2) チョーク又はテープで床に線を引きます。
- (3) 線の右側は意見に賛成であることを示し、左側は反対であることを示すことを説明します。その線からの距離が大きければ大きいほど、賛成や反対の程度が高くなります。部屋の両壁が最高限度となります。線上に立つのは、その人は特に意見がないことを示します。
- (4) 最初の意見を読みます。その意見についての自分の見解を示すように線のどちら側かに立ってもらいます。
- (5) 自分たちがその場所に立っている理由を話すように促します。
- (6) 話したいと思う人には誰でも発言してもらいます。その後、立つ場所を変えたいと思う人がいるかどうか尋ねます。
- (7) 移動したいと思う人たちが移動し終わったら、その人たちに移動した理由を言ってもらいます。

Ⅱ-4

ふりかえろう・子どもとの接し方

対象：学童期の子どもをもつ保護者
時間：50分程度

ねらい	子どもとの接し方を振り返ることにより、子どもの人権について考える。		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの気持ちになるように役割演技をし、自分の言動を振り返ることができる。 ○他の人が考えている「理由」をたくさん聞くことにより、子どもの人権に配慮した接し方について考えることができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○3人(又は4人)組になれる席の配置をする(全員が立てるだけのスペースを空けておく) ○資料 ○筆記用具 		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲よし同士が一緒にならないようにアイスブレイクを行い、3～4人のグループをつくる。 	
展開 10分	<ul style="list-style-type: none"> ワーク1 ・エピソード(1)を読む。 ・役割演技をする。 ・感じたことを書く。 ・グループで話し合う。 ・何人が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎日頃の親の言動で、子どもを傷つけてしまうことがあることに気付くことをねらいとする。 (1グループに5人以上の場合は、観察役の人数を増やす) ※役割演技は、その場の雰囲気によって内容を自由にしてよい。 ・それぞれの役の立場で感想を書き、話し合うよう伝える。 ・最後に、「子どもを、…だからと決めつけていることはないか。」ということを問いかける。 	
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・エピソード(2)を読む。 ・○○の気持ちを考え、シートに書く。 ・考えた言葉を紹介し、話し合う。 ・何人が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで○○の気持ちについて話し合う。 ・「○○○をほめていただけなのに、○○がとてもつらい」「友達ばかりをほめることも同じ」「片方をほめることは、もう一方は比べられていると感じている」ことをみんなで確かめ、最後にねらいを共有する。 	
20分	<ul style="list-style-type: none"> ワーク2 ・自分の思いをシートに○を付ける。 ・ジレンマ・ゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎地の人の意見を聞くことにより、子どもの人権に配慮した接し方について考えることをねらいとする。 ・意見が割れている項目をいくつか選んで、ジレンマ・ゲームを行う。 ・時間がある場合は、すべての項目を行う。 	資料(P.70)
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえり ・資料の説明を聞く。 ・全体に関する感想を出し合う。 ・ふりかえりを書く。 ・何人が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人権に関わるものがたくさんあることに気付いてもらうよう説明する。 ・ふりかえりでは、今後取り組もうとすることを書き、何人かに発表してもらうことにより、考えを共有し、実際の行動へと促すようにする。 ・最後に、「家庭が、子どもの人権感覚をはぐくむ大切な場である」ことを伝える。 	

※実施時間の関係から、ワーク1のみ又はワーク2のみの実施も可能である。